

# NHO研究ネットワークグループの活動と NHOブランディングへの貢献 — 消化器疾患(旧外科・麻酔科)グループについて —

高見裕子<sup>†</sup> 末永雅也\* 成田匡大\*\*第76回国立病院総合医学会  
2022年10月8日 於 熊本

IRYO Vol. 77 No. 5 (331-336) 2023

**要旨**

2022年10月熊本にて開催された第76回国立病院総合医学会のテーマは「Branding, Presence, Marketing～選ばれるために～」であった。そのなかのシンポジウム34「NHO研究ネットワークグループの活動とNHOブランディングへの貢献」は、本医学会テーマを臨床研究の場面で問うセッションである。今回、シンポジウムにおいて「消化器疾患(旧外科・麻酔科)グループについて」を発表したので報告する。

まず、「旧外科・麻酔科グループ」の過去の学会報告を紹介した。「術後せん妄に関する多施設共同後ろ向き実態調査」, 「大腸癌長期予後を指標とした外科技術評価法の確立 E-PASS study より」および「大腸手術時のSurgical site infection防止策の現状」である。術後せん妄およびSSIという外科治療における重要な合併症と、癌に関係しての長期予後の報告であった。また論文成果についても紹介した。

次に現在、当グループで継続中の臨床研究2課題を紹介した。NHO京都医療センター成田匡大主幹の「本邦における成人鼠径ヘルニア術後慢性疼痛の実態調査とそのリスク因子解析—多施設共同前向きコホート研究—」およびNHO名古屋医療センター末永雅也主幹の「膵癌における腹腔洗浄細胞診を補完する新規バイオマーカーの確立に関する研究」である。

過去の学会・論文報告と現行2課題が表現するように当グループは良性疾患から悪性疾患まで、そして合併症から長期予後まで幅広い研究分野をもつことを特徴とする(①Wide-Field)。それらのデータをNHOというクオリティの保たれた施設内で集積し(②High-quality)、かつ症例集積力はすさまじく、ヘルニア研究では目標症例数1,600例を超える2,671例が、また膵癌研究でも2年180例の登録目標ベースを超え試験開始後1年弱ですでに126例の登録をみる(③Big-scale)。

これら①Wide-Field・②High-quality・③Big-scaleこそ、NHO研究ネットワークグループ活動の強みと考える。この強みを活かし、当旧外科・麻酔科グループはさらなる臨床研究の推進と成果獲得に努めることで、NHOへの患者確保と、そして人員不足が叫ばれて久しい外科医・麻酔科医のNHOへのリクルートに貢献できればと考えている。

キーワード 研究ネットワークグループ、外科・麻酔科グループ、ブランディング、  
鼠径ヘルニア、膵癌

国立病院機構九州医療センター \*国立病院機構名古屋医療センター \*\*国立病院機構京都医療センター †医師  
著者連絡先：高見裕子 国立病院機構九州医療センター 臨床研究センター  
〒810-8563 福岡県福岡市中央区地行浜1-8-1

e-mail : takami.yuko-px@mail.hosp.go.jp

(2023年3月9日受付 2023年8月4日受理)

Activity of the NHO Research Network Group and Its Contribution to the Branding of NHO: Digestive Disorder (Surgery and Anesthesiology) Group

Yuko Takami, \*Masaya Suenaga, \*\*Masato Narita

NHO Kyushu Medical Center, \*NHO Nagoya Medical Center, \*\*NHO Kyoto Medical Center

(Received Mar. 9, 2023, Accepted Aug. 4, 2023)

Key words : research net work group, surgery and anesthesiology group, branding, groin hernia (inguinal hernia), pancreatic cancer